

第 1 回 「これからの地域活動」

平成 14 年 6 月 28 日 (金) 午後 7 時 ~ 9 時
福生市民会館第 4・5 集会室

コーディネーター：村山利夫氏 田村誠一郎氏
話題提供者：小林勲生氏 北澤 充氏



《市長挨拶》

皆さん、こんばんは。ようこそお出かけいただきまして、大変ありがとうございます。

「いっしょに話そう、まちづくりフォーラム」は昨年から開催させていただいておりますが、本日は今年の第 1 回目でございます。

はじめに、きょうの日程をお話させていただきますが、まず私の方から、福生市の現在おかれている状況、それから「まちづくりフォーラム」を始めたいきさつ等について、少しお時間をいただいて、お話をさせていただこうと思います。

その後は、コーディネーターの方にお任せをして会を進めていただきます。その時間をできるだけ多くとっていききたいと思いますし、また、皆さんの方からいろいろお話をいただいて、一緒にいろいろな形で問題を考えていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたしますと思います。

そして、私たちがなぜこの「まちづくりフォーラム」を始めたかということでございますが、御存じのように、地方分権一括法というものが 2000 年に始まりまして、2 年と少しが経過しました。

これによってどういうことが市町村、自治体にもたらされたのかということでございますけれども、今までは国や都が一定の形で法律や、仕事をつくって、全国の市町村が同じことをやっていくというやり方で市町村行政というものは進んでまいりました。

ところが、これからはそうではなくて、それぞれのまちというものは、それぞれのまちに住んでいる人たちが、自分たちがいいと思うまちをつくってほしいのだと。そういう形でみんなが考えていけば、そこに「新しいまち」ができて、それぞれが独立した、自主的なすばらしい、新しさを持った独自

のまちづくりができるのではないかとということになってきたわけです。

そのような形でいろいろやっていくことによって、みなさんと切磋琢磨していけば、どんどんいいまちができていくでしょうし、そういう形でまちづくりを進めていければ、市民の人たちも自分たちが思ったまちに住めるわけですから、それが一番幸せなのではないか。こういうことが、地方分権一括法という法律が施行されてから 2 年経った現在の状態でございます。

このことは、実はいろいろな意味を持っておりまして、一つ目は、そのまちでこういう形のまちにしたいという思いが市民の方々から出てくることによって、そのまちがつくられていくということでありまして、市民の方々が市政、行政というものに一緒になってかかわってくれないと何もできないということになるわけです。それを「協働」という言い方をいたしますが、そういうことをしてまちをつくっていきましょうという問題が一つです。

二つ目の問題は、市民の人たちの行政に対するとらえ方が大分変わってまいりました。

わかりやすいケースは保育所だと思いますが、お子さんがいる共働きのご家庭の場合、その子は保育をしていかなければならない。今まではその子を保育所に入れるという措置を市がやるという形でやってまいりました。

ところが、今はどこの保育園を選んでもいいことになっております。お母さん、お父さんたちが、あの保育園はいい保育園だと思えば、その保育園を選んでいい。その保育園に自分の子どもを入れるというのは、今までは市の方から言われて入れていたのですが、私立、公立がありますけれども、自分が選んで、自分とその保育園との契約で入れていくとい



う形なのです。昔は「措置」という言い方をしておりましたけれども、今は契約関係で子どもを保育してもらおうというやり方になりました。

どこを選んでもいいということによって、いい保育園をつくらうという競争が生まれてくるであろう、それから自分が選ぶということによって、自分で最終的に責任を持っていくということ、こういうやり方によって変わってきました。その基本的なところは、自分で選択をして自分で責任を持っていくということです。このような形に行政の仕事の仕方も変わってきております。

こうなってくると、逆にいろいろな心配がまた出てくるのです。市民の人たちが本当にいろいろな情報を持っていて、それでそういうものを選んで、責任を持ってやっていくというやり方をとっていただけの方はよろしいですが、そうでなくて、何も知らない人がもしいたとして、その人がそういうサービスを全く受けられない、あるいは中途半端になってしまうということでは困るわけございまして、そのあたりで行政というもの、あるいは市の仕事というもの、それからいろいろなサービスというものについて、市民の皆さんにできるだけよく知っていただいて、その中で自分に必要なものを選んでいくというやり方、これを市民の皆さんが自分の問題として持ってもらうなといけないう形になってまいりました。

このようなことはこれから進んでいくだろうというふうに思います。今まではどちらかと言えば、人任せ、あるいは行政任せみたいな形で、何かをやってくれるだろうみたいなやり方でよかったのでしょうけれども、これからはそうではなくて、自分で情報をとって、自分で選んで、自分で責任を持つということ。そのかわりサービスというものは一定の形で準備がされていますよと、こういうことになっていくわけでありまして。

そういう意味で、さまざまな仕組み、やり方みたいなものが変わってきたものですから、できるだけ市民の皆さんに、お互いにいろいろなことを話し合えるような環境をつくっていく、あるいはいろいろな情報を持ってもらう。こういうことをしていきたいというのが、この「いっしょに話そう、まちづくりフォーラム」を始めたの基本的な理由であります。

ただ、こういうものは、この1回でどうにかなるという問題ではなくて、これからずっといろいろな形で続けていかなければいけないと思いますし、それぞれの皆さんがこれから輪を広げていっていただくことが非常に大事であるのかな、こんなふうにも思うところでございますけれども、そんなことを前提とさせていただきます、福生市のことについてのお話をさせていただきたいと思っております。

スクリーンに福生市のデータが出てまいります。お手元に、これと同じ資料をお配りしておりますが、これを見ながらお話をさせていただきます。

現在、福生市の人口は62,237人で、都内26市の中で下から2番目の小さな市でございます。羽村市が一番少ないのですね。

高齢者比率が22位ということは意外に高くはないということでありまして、そういう意味では、若い市であるということが言えると思います。

面積については10.24平方キロあることになっております。このうち横田基地が3.317平方キロでございますので、横田基地を除いた面積は約6.9平方キロと考えてよろしいかと思っております。羽村市と昭島市との間が4キロ程で、それから多摩川と横田基地の間が2キロ程だと思えばよろしいかもしれません。そこに約6万2千の人が住んでいますから、資料には人口密度は17位と書いてありますけれども、横田基地を除きますと、人口密度は26市の中で8位ということになります。大変高い人口密度であります。

次に福生市の財政の状況が出てまいりました。これは後で一人当たりで見た方がわかりやすいかと思っております。歳入予算については、市税が37.2%となっております。要するに、市民の方々から税金としていただいている割合でありまして、それ以外は外からいろいろともらってくるお金ということで、もちろん市債という市の借金を起こしますから、そういうものは市の財源なのですが、それにいたしましても、市税としていただけるのはこの程度であります。歳出予算を見ていただきますと、民生費が32.2%ですから、およそ70億円になっております。民生費というのは、保育園、あるいは生活保護、そのほか老人福祉などを扱っているわけです。土木費の割合は18.1%で、大分少なくなってきました。教育費については15%程度です。このような構成比になっているということでございます。

次のページですが、こちらの数字で見ていただいた方がわかりやすいかと思っております。市民一人当たりの税額というのが出ております。これは約13万8千円です。26市ありますが、その中で24位ということです。これはゼロ歳から最高齢者の方まで1人として計算をした場合に、このくらいのお金をいただいているということです。

歳出の方について言いますと、約36万5千円でありまして、これは26市の中で4位になります。したがって、福生市の場合には、市民一人当たりから税として負担していただいている額は非常に少なく、返されている額は非常に高いという、そういうことがこれでおわかりいただけます。およそ2.6倍ぐらいになります。

それから下の方にいきますと、自己財源比率は45.1%で、あとの55%は外からもらってくるお金で仕事が行われているという、そういう意味です。

市税徴収率は92.3%で16位でございます。

国保税の徴収率が70.8%で22位ですが、最近これは制度を変えて、市の職員に頑張ってもらって上がってまいりました。ただ、後ほど悪い方の話にもこれはつながってくるのですけれども、今、国民健康保険税は、本来は17億円程度入ってこないといけませんが、実際にはそのうち4億5千万円ぐらいは入ってまいりません。これは滞納繰越という、以前からお払いをいただけない方もいらっし

やるということもありますが、この数字でいいますと、7割程度しか入ってこないという状況がわかります。

したがって、あとの3割は一般会計から埋めていくという形で措置をするものでして、この額が5億円から6億円近くになってまいりました。そうしなければ、一般会計の方でさきほどの教育費とか福祉の方に回せるわけですが、今、国民健康保険の仕事のためにそのお金を使わざるを得ないというような状況が出てまいっております。この点については、基本的にいえば、やはり税とか、国民健康保険税、こういったものはやはり義務として負担していただいて、その上で権利としてさまざまなサービスを受けていくというのを、基本的な考え方として持たなくてはいけないのかなというような思いがいたしております。

次のページ、公共施設の整備状況(その1)ですが、最初の方でこの辺の話が出てまいりましたが、道路もそうです。下水道とかというのは、全く問題ありません。

世帯当たり市営住宅比率は0.9%になっております。要するにこれは、福生市は公営住宅が非常に多いまちでありまして、市営住宅も26市の中で2位の高さで持っております。持ち家比率というものが非常に低くて、貸家、あるいは公営住宅等が多いというまちであります。

次のページですが、この辺はどちらかというところ、いい方のところで言っております。市民一人当たりで比較をしていきますと、都内26市中の順位というものはこんなところに来ておりまして、このほかにも数字のとり方はいろいろあると思いますけれども、都市基盤整備、あるいは生活基盤と言われている各種の施設整備といったようなものについては、大変高いレベルで整備がされてきているまちだということと言えます。

次のページの教育・文化については、前段の方は、かなり大きい額を教育関係に使っているということでありまして、下の方について言えば、やはりまだ、不登校の子どもたちが大勢いるという意味では、これからいろいろ考えていかななくてはならない課題があるというようなことが言えるだろうと思います。

次に、福祉、保健、医療ですが、市民一人当たりの民生費については7位でして、それから市民一人当たりの扶助費、扶助費というのは生活保護の扶助費だとか、あるいは児童のための扶助だとか、そういうお金でありますけれども、そういうものが非常に高いまちであります。

それから生活保護の保護率というのは4位となっておりますけれども、例えば、あきる野市とか羽村市とか青梅市に比べると、2倍ぐらいの率になります。それだけ、ある意味では住みよいとも言えるでしょうし、自立をしてこういうものを受けていただくと非常にいいことなのですが、そうでないと、いろいろな問題もまたあるとも言えるかもしれません。

以上、福生市のことについて、ちょっと御紹介を

いたしました。要するに、福生市には素晴らしい部分、例えば駅が五つもあって利便性が非常に高いまちであり、都市基盤、生活基盤が非常に整備されていて、非常に住みよいまちということが言えると思いますけれども、もう一方では、市民の皆さんの生活の実態からいえば、さまざまな課題がある。ですから、生活の質みたいなことについてこれからどうしていくかという問題を、いろいろ考えていかなければいけないのかなと考えるわけでございます。

それはそれとしまして、このようなデータについては、市の方でもお出しをしていきますので、いろいろ見ていただければと思います。きょうは、この後は完全に自由に、気楽にお話しをいただくということになっておりまして、市の方の職員も大勢いますけれども、特段のコメントをいたしませんで、皆さんの方でお話しをいただくという形にさせていただきます。

このフォーラムについては記録集をつくらせていただきます。それから、この話の中で出ました、こういう課題について、やはりみんなで考えていかななくてはいけない、今後やはり施策としてやっていかななくてはいけないという、そういう問題については、できるだけそういう方向でやっていきたいということ、もう一つは、やはりこういう話をもう少し展開をして、みんなでいろいろ考え合っていくという、そういうこともしていきたい。それではこれから早速に話を始めていただくことにいたします。

きょう、実はコーディネーターとしてお願いいたしました、一番向こうが田村誠一郎さん。田村さん自身は「嘉泉」でお仕事をされているわけですが、市の仕事についても、市全体を通していろいろなことを考えてくださっております。きょうは地域づくりということでコーディネーターをお願いいたしました。

それから次が、村山利夫さんでございまして、カジマビジョンにいらっしゃいます。外国の方でむしろ有名な方でございまして、ドキュメンタリー映画みたいなものを御本人がつくっている。あるいは外国で各種の記録映画会の審査員なんかもされておられる、そんな経歴をお持ちの方でございまして。きょうお願いしたのは、仕事をされていて外国に行くという機会が非常に多いのですが、そうした中でも、地域あるいは町会の活動などに大変熱心に取り組んでおられますので、そういう意味からコーディネーター役をお引き受けいただきました。

それから、そのお隣が小林勲生さんでございまして、いろいろボランティアをされています。最近、仕事をしている間というのは、地域とあまりつながりがなくて、その後いろいろ活動を始めてくださる方が非常に多いわけですが、そういう人の代表みたいな感覚で、また、町会の役員もやっておられますので、その辺の話を、話題提供者としていろいろお話をいただきたいと思っております。

それから、そのお隣が北澤充さんでございまして。青少年というものを地域の中でどのように育成していくのかといったような問題というのは、地域づ

くりの中で一つの大きな課題だろうというふうに思っておりますが、そういう活動をずっとやってきてくださっておりまして、非常に熱心な活動家ということで、そんな意味からお話をいただけるのではないかと考えております。

これからは村山さんと田村さんにお任せをいたします。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

《村山》

御紹介いただきました村山でございます。熊川に住まわせていただいております。ほとんどずっと福生で御厄介になっている者でございます。

きょうは、皆さん、お忙しいところをお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

どういふ話の展開になるのか、私も想像がつかないところがあるのですが、一応、お手元にお配りしました「これからの地域活動」というA4縦の資料がございますが、ほぼこれに沿ってお話を進めさせていただこうと思っております。そのポイントだけを最初に、御理解いただくためにお話しいたします。

まず最初に、私たちのまち福生における地域活動全体というものを、把握してみたいと思っております。最初はその話題でございます。

次に、この地域活動というのは大変数が多いのですが、これらについて一つ一つ皆さんでお話し合いをしていただくと、何時間あっても足りませんので、きょうは目標は9時ぐらいまでに終了ということでございますので、その範囲の中で、どこかに絞らないといけないわけでございます。

それで、絞り方としては、三つに絞ってお話を皆さんでしていただければいかがかなというふうに思っております。その第一は、やはり町会活動というものを皆さんで把握してみたい。そして皆さん



の抱えておられる悩みとか、町会活動のよさ、こういったようなものについて、皆さんでディスカッションしていただくということでございます。

二つ目は、ボランティア活動。このボランティア活動も非常に多岐にわたって展開されているようでございますが、きょうは小林さんという、ボランティア活動では活発に活動されておられる方が、話題提供者として来ていただいておりますので、いろいろと御協力をされているようですけれども、防災を一つの例にとって、ボランティアをどんなふうに関心しておられるかをお話しをしていただき、また御

質問等ありましたら、皆さんで積極的に討論していきたいと思うわけでございます。

それから、何と申しまして、大人が支えているこの社会だとは思いますが、明日の日本というものは子どもたちにかかっているわけでございまして、その子どもたちにどんなふうに関心を持ってもらうかということは、私たちの共通の問題であります。そういう意味で、子どもたちと、親にかわってと言ってもいいかも知れませんが、本当に同じレベルで、同じ視点で遊んだり活動したりされている北澤さんが、きょうおいででございますので、そういう子どもたちとのつき合い方、子どもたちとどんなふうに関心を持ってもらえるのか、その辺のところを紹介していただきながら、討論を進めていきたいということでございます。

最後はまとめということになりますが、きょうは会場にお入りいただき、皆さんお気づきかと思いますが、写真がたくさん張ってございます。これは、やはり文字だけで、または言葉だけでお話ししても、活動の実態というものはなかなかわかりにくいものですから、きょう御出席いただいている方々に、その象徴的な活動の写真をお見せいただき、こうやって張っていただきました。おいでになったときにごらんになった方もいらっしゃるかと思いますので、きょうお帰りになるときに、忘れずに一つ一つ写真をごらんになっていただき、その活動の実態というものを把握していただければ、その趣旨をお見せいただけることになるかと思います。

私たちは前に座っておりますけれども、基本的には、これは車座という意味でして、全く胸襟を開いて、膝を交えてお話しするというような趣旨でございますから、どうぞ御遠慮なく、御質問等がございましたら、手を挙げてお話しをしていただければというふうに思っております。

では、早速でございますが、最初の話題に入りたいと思っております。

そこで、私たちのまち福生における地域活動全体をつかみましようということで、実はきょう、打ち合わせで、こちらにいらしゃいます田村誠一郎さんのお宅に、私、お邪魔してまいりました。そうしましたら、御当主の田村半十郎さんがお出になってこられて、私たちの打ち合わせを聞いておられて、昔の話をしてくださったのです。私、これはいい話だと思いましたので、インタビューしてまいりましたので、それを皆さんに、そのポイントをちょっとお話ししたいと思います。

時代はぐっとさかのぼって、明治20年、1887年なのですけれども、これは福生にとってどういう年だったかといいますと、福生村の村おこしというものをするために何が一番大事だろうかという、地域の有力者が皆さんで考えられたそうです。それで、やはり何といても、いい先生を呼ばなければいけないということで、学校の先生を探したそうです。

次に探したもののというのは、いいお医者さんを探してこないといけない。つまり健康で生活できない

いいいけないということ、日本じゅう探し回って、いい先生を見つけようということだったそうです。

3番目は、これは時代をあらわしていると思うのですが、いい神主さんを連れてこようというので、この三つに奔走されたそうでございます。

その結果として、明治21年、翌年でございますが、鳥根県御出身の井上令照さんとおっしゃる先生が、福生第一小学校の先生として迎えられたそうでございます。

2番目のいいお医者さんでございますが、山田正哉さんとおっしゃる愛知県御出身の方だそうです。たしか私たちの第一小学校の校医もやっていたりしたと思うのですけれども、そういう先生が着任されたのです。先生といってもお医者さんでございます。

そして神主さんは、宮本豊恭さんという方で、この方は長野県の上田出身の方だそうです。高尾山で修験道の道にいそしんでおられた方なのだそうです。その方が神明社の神主さんとして迎えられたのだそうです。

時代を映していると思うのですが、そんなことで、今から130年近く前は、村おこしにそういうことを考えて、人を迎えられたということだそうです。

さて、お手元に、では今度の「まちづくりフォーラム」で、福生の地域活動というものがどんなふうになっているのかということで、資料をお配りしているのですが、この資料はお配りされていないのです。市民活動団体データ」というものなのですから、お手元に行っていないと思いますが、簡単に御説明します。

私、この表を見てびっくりしてしまったのです。つまり、福生市を舞台にして市民活動をしている団体の数、皆さん、幾つくらいあると思いますか。何と200あります。正確に言いますと196というデータが出ております。その活動の中身は、保健医療関係とか、福祉とか、それから社会教育関係とか、まちづくりそのものを推進している活動とか、文化芸術、スポーツ、それから環境の保全、災害救助、地域の安全、交通安全とかですね。それから人権の擁護、平和の推進、国際協力、男女共同参画社会の形成、子どもたちの健全育成を図る活動、その他もろもろ、多岐にわたっているわけでありまして。

先ほどお話ししましたように、これらについてみんなで話をしようとする、時間がかかりますので、どの一つもとても大事だとは思いますが、やはり優先順位をつけて、きょうは三つのお話について皆さんで御討論いただくということでございます。

そこで、三つの活動なのですが、まず最初に、町会活動について、皆さんでぜひお話し合いをしていただきたいと思います。

ただ、いきなりマイクを向けましても、話が進まないかと思うので、たまたま市役所の社会教育主事の方が、これは皆さんのお手元にお届けしてあると思いますけれども、福生市の生い立ちと町会の現状といったようなものを簡単にまとめた資料が

ございます。これはお手元にあると思います。これを、ちょっと長目に見えるかもしれませんが、共通の基盤に立つという意味で、田村誠一郎さんに読んでいただきますので、ぜひ皆さんに御理解いただきたいと思います。

自己紹介も含めて、お願いします。

《田村》

田村でございます。先ほど市長さんの方から紹介していただきましたけれども、私、田村酒造で酒造りと商売の営業をしております、専務という形でやっております田村誠一郎と申します。よろしくお願いたします。

このテーマに沿ってやらせていただく前に、皆さん、何らかの形で町会活動に参加されていると思いますが、町会によっては非常に組織率が悪いですとか、活動が思うように立ち上がらないですとか、いろいろな問題を抱えながら、町会長を初め皆さん、役員さん方はやっておられるわけでございます。そういった意味で、先ほど村山さんの方から紹介していただいた配布資料ですが、福生市全体の町会をお調べになった、そして文章にしましたものがございますので、それをちょっと読ませていただきたいと思います。

『福生市の町会の現状。1960年以降、高度成長期の東京では、日本各地から中学を卒業したばかりの少年少女を「金の卵」として工場労働者として迎えた。福生でも、日野自動車羽村工場の関連会社への就職のため、この時期には日本各地から数多くの人が流入し、人口が急増した。

町会・自治会そのものは地域住民によって構成されている。この100年くらい前からの福生の歴史の中で、地形や区画の大きな変更を伴う変化は、1940年代の横田基地の造成と、1970年代に田んぼが宅地に変化した南田園と、畑が工場と住宅地になった武蔵野台が代表的ではないか。

横田基地は雑木林が基地という特殊な変化形態をとったが、他の2件の特に南田園は区画整理とともに福生団地が造成され、短期間に急激な世帯数と人口が増加し、町会・自治会が生れる要件が発生した。

戦前のことはいざ知らず、戦後、特にこの30年くらい前からのことを考えてみると、上記のように人口が飛躍的に増加したと新たな住民の流入により、今までの伝統的な価値観だけではない、多様な価値観を持つ住民による現代的な課題を解決できる町会、あるいは自治会といった自治組織に変わざるを得なかったはずだが、うまく対応できた町会と、昔からの住民による世襲的な運営が続いていた町会では、当然、差が出ていると考えられる。また、福生の中でも、比較的早い時代に区画整理された駅前周辺や銀座通り周辺（本町、志茂町会）と、戦前からの集落として農地が残り、区画整理が遅れた永田、長沢、熊川の南町会などは、同一次元での比較検討は難しい。

そのため、この小さな福生の中でも、昔ながらの風情を残した地区と、日常生活環境では周辺にほと

んど緑がない地区が生じている。

また、町会としての取り組みにも差が出ているようで、単純に町会への加入率を見ても、30%台から100%を超えている町会もあるように、大きな差が出ている。これらの差は、恐らく新参者は町会加入を快しとしないという風潮が残り、それでも維持していける町会と、事実上そんなことは言っていられないことから必然的に新住民を受け入れた町会の、歴史の差があるのではないか。

また、町会・自治会の役割を盲目的に必然として考える地域指向型から、1億総中流時代の到来とともに成立した生活の個別化が、日常生活圏の人間関係より、会社や趣味などの機能指向型へと時代の流れが勢いを増している。

このような歴史的、社会的な要因によって、市内の町会の中には、今日的課題への対応力が弱く、前年踏襲型の運営に終始している町会や自治会と、町会・自治会内の周辺的生活環境や伝統行事の維持だけでなく、教育・文化領域への新たな対応を模索している自治会も見受けられる。』

これが伊藤さんが調べられて文章にされた、まさにこのようなことが、今、町会の中でもあると思うのです。町会のことでは、新たに外から入ってきた人は、非常にその町会を毛嫌いしている方もいらっしゃる方もいらっしゃるということで、非常にその温度差がある。ただし、その町会というものは、福生のまちの中で非常に大切な位置づけにあることも事実であります。そういった意味で、ぜひとも皆さんの忌憚のない御意見を伺いながら、町会のいいところ、悪いところ、そういうところの御意見を伺えればと思っております。よろしくお願ひいたします。

《村山》

どうも、長文をお読みいただきまして、ありがとうございました。

町会の機能というものを改めて考えてみますと、四つぐらいのポイントになるのかなというふうに思うのですが、その一つは、やはり町会は、行政、つまり市民に代行して住みよいまちづくりを進める機関の活動を、一市民レベルにまで周知徹底する機能というものが町会にはあると思います。

それから、隣組がベースになっていると思うのですけれども、やはりお隣さんとして基本的なおつき合いをしていくという、本当の基本的なベースがそこにあるのではないか。

それから3番目としては、防災を始めとする、いわゆるお互いに助け合うというふうな、そんな意味合いがあると思います。

4番目としては、これもその一環だとは思いますが、青少年の育成。やはり親が子どもに何かをしつけるというだけではなくて、隣のおじいちゃん、おばあちゃんが隣のお孫さんをしつけるという場面だってあるわけでありまして、やはりこの町会というものが活発に活動されていますと、そういう機能というものが発揮できるのではないかなというふうに思います。

それで、私はもともとカメラマンなものですから、今、会社では撮影はしていないのですけれども、たまたま町会活動をいたしまして撮影しました映像がありますので、ここでちょっと皆さんに見ていただくと思っております。

それで、町会の1年間の活動というものを整理してみますと、非常に大変な活動があるのですが、きょうはその中から、運動会と夏まつりと、それから「長寿を祝う会」ということで、町会の中では割と大きな役割を果たしている三つの活動をメインで見させていただこうと思います。

ビデオ放映

これは鍋二町会の運動会です。運動会というと、みんな一つのパターンを皆さんは思われるかもしれませんが、やはり町会の運動会となると、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんから子どもまでが一つになって一日を過ごすという、そういう機会というのは、ありそうでないのですね。やはり参加している人々の表情を見てみますと、大事なコミュニケーションをされているのかなと。それは親子だけではなくて、お隣のおじいちゃん、おばあちゃんも一緒になって参加しているというふうなシーンが多く見られております。

それから、こういう行事を具体化するためには、大変な裏方の御努力があるわけですし、そういうふうな姿を子どもさんたちが、なかなか教えられるわけではないのですが、体験していくものなのだろうというふうに思います。

これは夏まつりです。夏まつりも町会最大の行事として、これを本当に安全にスムーズに進めるためには、大変な周到な準備が必要になります。しかし、その努力が、こうやって楽しんでいる子どもさんたちを見てみますと、私たちも小さいころを思い出すと、何かといえば、やはりお祭りを思い出すわけですね。そういう、子どもたちにいいイメージといましようか、貴重な思い出をつくっているのだなということを、表情を見て感じて、その意味の深さみたいなものを感じるわけです。

日本の特徴というのは、海外から見れば、こういう伝統的な行事というものを守りつつ最先端の技術を開いていくというところが、海外の人たちにとっては、大変すばらしい進み方だというふうに映っているわけですが、いろいろ核家族とか、受験競争だとか、いろいろあって、なかなか大変な環境ではありますが、こういう喜んでお子さんたちの表情を見てみますと、こういうものがいかに大事か、こういうものを実際に毎年きちんと進めていくというのが町会活動の重要な役割なのだなということを感じます。

それからこれは、敬老の日というものがありますが、その日にちなんで「長寿を祝う会」というものを毎年行っています。まさに日本は高齢化社会を迎えておりますけれども、鍋二の中央会館に70歳以上の方々をお招きして、手づくりの料理もありますし、それから町内会で活動をされているいろいろな

団体がございます、踊りの会とか、そういった方々の発表の場にもなっております。こんな形で「長寿を祝う会」というものが行われております。

ここで一番人気があるのが、フラダンスショーでございます。若い人たちも一緒になって踊るんですが、きょうは時間の関係がありますので、本当はこの後にフラダンスが出てくるのですが、そこはちょっと割愛させていただきます。一番大騒ぎになったのが、そのときなのですね。

ビデオ終了

これはほんの一部でございまして、町会の活動は、一つのイベントをやるのに何回も何回も集まって、準備を重ねて、皆さんに喜んでいただくというふうなことでございます。

これで町会活動というものを、まあ全部を理解していただいたということにはならないと思いますが、共通の舞台がくれたかなというふうに思いますので、きょうお集まりの皆さんの中には、町会で活動された御経験をお持ちの方もたくさんいらっしゃるのではないかと思いますので、良い点、悪い点、中には町会活動なんて要らないのではないのと、俺は全然必要としていないよというふうな方もいるという話を聞いたことがあるのですが、一体、町会活動というのは今後、本当にどうなのでしょう、必要なのでしょうか。その辺の疑問を投げかけて、皆さんに御討議いただきたいと思います。

町会のこういうところがいいのではないかとというふうな御意見がございましたら、最初に皆さんにおっしゃっていただきたいと、こう思うのですが、いかがでございますか。せっかくおいでいただいていますので、なるべく皆さん、たくさんの方に御発言いただきたいと思ひまして、全然、緊張していただく必要はありませんので、自由におしゃべりしてください。

すみません、何かサクラムみたいに皆さん思われるかもわかりませんが、私、鍋二にお世話になっておりますから、鍋二の前会長さんが見えていますので、町会はすばらしいと思ったこととか、または、ここが大変苦労したというふうなことがございましたら、ちょっと口火を切っていただけますか。

《Aさん》

Aと申します。よろしくお願ひいたします。

去年の3月まで4年間、町会長をやらせていただいたわけなのですが、その前から13年ぐらいですか、理事とか、そういうものからなっていたわけなのですが、私も熊川へ来たのは今から30年ぐらい前になります。そんなことで、それから10年ちょっとたってから町会に顔を出すようになったのですが、町会に出なかったとしましたら、本当の隣近所ぐらいのおつき合いしかなかったのですが、そのおかげでいろいろな方とお話しできましたり、会えたりいたしまして、すごい財産になったと思っております。

ただ、惜しむらくは、町会の加入率が鍋二町会の

場合、50%そこそこではないかと思うのですが、そういった面を市の方でぜひ、転入がありましたら、この住所でいくとどこの町会だということで、町会に入ってもらふようなことをしていただければ、少しでも多くの方が町会活動に参加できるのではないかと思います。

それと、この資料を見させていただきまして、先ほども説明がありましたけれども、やはり持ち家率が少ない関係もあるかと思ひます。アパートとか貸家ですね、そういうものが多いせいで加入率が上がらないのだと思うのですが、加入率をもう少し、少なくとも70%ぐらいに上げれば、もっと活動が活発になるのではないかと思います。

以上です。とりとめのない話で、申しわけないです。

《村山》

ありがとうございました。

ちなみに鍋二では、その加入率を上げるために特別のチームをつくって、御近所にお誘いをしていくというようなこともやっているわけで、最近、徐々に加入率が上がっているところはあると思ひます。

今、町会で役をされている方がいらっしゃるから、ちょっと手を挙げていただけますでしょうか。では、せっかくですので、恐れ入りますが、お名前と、それから町会のいいところ、悪いところ、大いにおっしゃってください。

《Bさん》

本八第二町会の会計をしておりますBと申します。

きょう、こうやって地域活動ということで、私自身も今、先ほどAさんからの話もありましたように、我々の地区におきましても、やはり町会の加入率が非常に悪いのですね。

もう一つは、町会の役員のみなり手がないと。こういう言い方をしますと、ちょっと語弊があるのですよ。やりたい人たちもいるのですけれども、なかなか組織立って活動できないと。というのは、いつの間にかその役員にならされてしまっているとか、これはこの人にぜひ次の役員をやってもらいたいと思ひっていると、その人が何かの理由をつけて、そういう活動になかなか入ってこない。

一つは、私どもの地区、共通するところがあるかもしれないけれども、子ども会に入るために町会に加入するというような状況もあるのです。その一つには、子ども会そのものが町会の一つの下部団体というやり方もしておりますので、それが一つの原因かもしれないけれども、子どもはやはり子ども会に入れないと、近所の子どもとつき合っていけませんものですから、そういうようなところもある。そうすると、子どもが小学校を卒業すると、中学校のころから子ども会をやめると。中学校になるとPTAだから、子ども会は直接関係がないというような状況のところもあるのですね。

それからもう一つは、割と長年、町会に入っても

らっている方が、例えば高齢になって自分で動けなくなったからやめたいと。それに関しまして、私もも、何としてもそれを引きとめているのですよ。だから、そういうふうなのが、もしそういうことを心配しているのなら、なおさらのこと町会に残ってくださいよという呼びかけをしているわけですね。

中には、これから本当にうちの地区で少し頑張っしてほしいと思う人がやめていくわけですね。そのことの中に、いろいろ理由をつけられますけれども、中には、回覧を回すだけの町会なんて、そんな組織なら要らないよと、町会なんかなくしてしまえというふうになる。言ってみれば、我々、私も去年から始めたばかりですけれども、実際にその中で活動している者が、やはりいろいろ日常の業務に追われ過ぎていくと。それがために、何かやりたいけれども、具体的にできない。先ほど例を挙げてビデオなんかを見せてもらいましたけれども、ああいった行事をするためには、役員の人は大変だと思っただけですね。それをなかなか率先してやってもらえない。

中には協力する人もいるのですけれども、なかなか話が先に進んでいかない。私も町会にいる者ももっと活発に動けばいいのですけれども、残念ながら、それぞれ仕事を持ちながらの活動ですから、本当に土曜・日曜しかない。そうやってくると、いや、やりたいのだけれどもと思うけれども、今年ではできない。来年やりましょうと言っていることが、来年、来年と延びていって、実を言うと、うちの地区では、まだ運動会が開けない。実はいろいろな団体から、運動会をやりましょうということが出てくるのだけれども、具体化していけない。今、やっとやっていますのが、子ども会を中心とした運動会が開かれております。

といいますと、これはやはり私も含めてですけれども、役を仰せつかった者がもうちょっと本当は頑張らなければならない。頑張るにしても、時間的な余裕がないためにそうになってしまう。だんだんだんだんしぼんでいくために、結果的には町会の加入率も落ちてくるし、また、出る人もいないかと。

今日はそういうところを少し反省しながら、このフォーラムに参加させてもらっておりますけれども、私としては、町会は是非必要だと。そういった隣組ともありますし、さきの阪神・淡路大震災ですね。あのときなんか、やはり地域活動がなかったら、地域の横のつながりがなかったら、本当に大変なことですよ。そういうことで声かけしましたら、幾らか町会加入がふえましたのですけれども、またやはりそういうことが少しずつおさまってくると、さっき言ったような理由をつけられてやめる人も出てくると。

一つには、うちの本八第二地区というのは、マンションなんかが多いということがあって、加入率が悪いのも一つはその理由かなと思っております。マンション等に関しましては、建ってから、住民が入ってからは、なかなか加入を勧めても入ってもらえないものですから、建設の段階ぐらいから業者の人とも話しながら、ぜひ町会には入ってもらうように

入居のときには勧めてくださいというふうなことで、あるマンションにつきましては、マンション丸ごと一つの地区として加入してもらったところもあるのですけれども、こんなこともやりながら、町会はぜひ必要だということで、これからもやっています。

今日は皆さん方から、いろいろなアドバイス、またいいアイデアがあったら伺いたいと思っただけです。よろしく願いいたします。

《村山》

ありがとうございました。

先ほどごらんいただいた「長寿を祝う会」というものがありますが、呼ばれた方々はもちろん70歳以上ですから、皆さん、御老人という言い方はいけない、長寿の方です。ところが、僕が感じたのは、お一人お一人、本当はそれぞれ得意なわざとか、そういうものをお持ちの方々ばかりのはずですね。ところが、せっかくお祝いする会なのに、その方の特徴を御紹介することがありませんでした。

それで、もし何人かでも、この方はかつてはこういうことをなさった方ですと。今、御相談すれば、その貴重なお話をしてくださる方もおられません。または、すばらしい技術を持っている方もおられません。そういうものを皆さんの前で披露していただけるような機会というものもつくっていただくと、子どもたちの見る目が変わってくるのではないかなど。

活性化の一つの要素としては、やはり子どもをどう巻き込んでいくか、子どもを通じてお母さんを巻き込み、お母さんを通じて旦那を巻き込むというふうな連鎖反応をいろいろねらうと、一つの活性化のポイントになるのではないかな、なんていうふうに思っています。

実際、本当に通勤に1時間半とか2時間とか、サラリーマンをやっておりますと、町会活動を全うするのもなかなか容易ではありません。しかし、大変だったけれども、それを埋めるに余りある、すばらしい人的財産を私はいただいたというふうに入っているところなのです。

ほかにもいらっしゃいましたので、お願いいたします。

《Cさん》

加美平団地の事務局のCと申します。

2年目なのですが、今、お話がありました子どもさんがキーワードになっているという部分で、実は悩んでいるのですけれども、加美平団地はかなり歴史のある自治会というふうに分も何って来ています。

ところが、やはりここ1～2年、少子化ということで子どもさんがいなくなっている関係で、先ほどもちょっとお話がありましたけれども、子どもさんが大きくなった関係で親御さんが自治会の活動の役員をやめる、ないしは出てこないのですよね。子どもさんがいたときには、先ほどもお話がありましたけれども、子ども会があって運動会をやり、また

それを通して活性化ができた。そういう部分で、運動会以外にも催し物をやればみんなが集まってきた、そういう部分があったのですけれども、そのところが、子どもさんが大きくなって学年が上がり、なおかつ転居という部分でいなくなっていくと同時に、子ども会が消滅し、かといって、運動会はやりたいけれども、親だけでやったのではという部分、その部分が悩みとして、解決できない部分として、今あります。

それから、それと同じ原因だと思うのですけれども、やはり祭りという部分ですけれども、非常に地域活性化ではいいと思うのですけれども、こちらも、やはり子どもさんがあまりいないということで、親がどうしても祭りだからやりたいのだと言っても、なかなかやる内容が、子供会だけではどうしても、一方では盛り上がりましますけれども、子どもさんが集まってこないという部分で、うちの場合はいつも市のお祭りからは日にちをずらして、8月の下旬にやっています。ほかの町会、お隣さんですけれども、そちらの応援をいただいて、それで盆踊りのやぐらとか、それから出店をやっております。そういう部分では、地域の活性化という部分では、ある程度いいかなと思うのですけれども、そのために、自分たちの自治会に住んでいる、町会に加入している皆さん方が自主的にお祭りを企画するということがなかなかできない部分で苦労しています。

そういう部分と、あと、やはり加入率が低いという部分では、なかなか大変なもので、これもやはり役員が、これは自分も含めてになると思いますけれども、長年経験されていた方が会長さん、副会長さんをするという部分で、なかなか新しいことをやるうとしてもやり切れない。役員が1年交代という部分があって、覚えると次はかわるよと。役員をやるのなら自治会に入らないよ、こういうお話もあって、なかなか当の役員も出てきてもらえないという部分で悩んでいます。

そんなことなのですけれども、一つだけ、これは誇れるというか、いいお話だと思うのですけれども、二中の吹奏楽部が、非常に吹奏楽では、市の方でもあれしていますけれども、全国的に名前をとどろかせてきているのですけれども、生徒さん方が頑張ってきている。これも30年近くの歴史があるのですけれども、先日、やはり自治会にマルフジがあるのですけれども、その裏でコンサートをしていただきました。毎年400名前後の方が来てくれています。それで二中吹奏楽部の指揮をとっている先生も二中の卒業生ということで、その当時から地域交流ということでやられてきた。そういうことも含めて、地域の子どもさん方、青少年をどういうふうにやっていくか、その辺がテーマになってくると思うのですけれども、そういう活性化になるようなことが歴史がある中ではできるのだなという、そういうものを考えていますので、やっていきたいというふうに思っています。

どうも貴重な時間をありがとうございました。

《村山》

どうもありがとうございました。

前の方におっしゃいました悩みを伺いますと、すぐに解決策が、肝心なお子さんがいらっしゃらなければということではありますが、最後におっしゃった御意見は、非常にヒントになるお話ではないかと思えますね。つまり、福生の中でも、何もみんなが同じ日に同じ祭りをしなければならないという別に規則があるわけではありませんので、むしろ地域性を生かして、その特徴、特色というものをみんなで見出して、それを生かしていく方法というのがあるのだなということが、今のお話でわかりました。

活性化でお悩みの皆さん、今のお話は大変参考になるのではないかなというふうに思います。どうもありがとうございました。

時間があるのですが、もう一つ、せっかくですので、今ごらんいただいたビデオ、三つのテーマになっていましたけれども、21世紀は環境の時代と言われておりまして、また鍋二なのですけれども、鍋二のDさんが見えていますので、Dさんはお若くてこの町会活動の責任者になられて、活発に活動されているのですけれども、ちょっと一言、御意見をいただけますでしょうか。

《Dさん》

こんばんは。熊川駅の近くの鍋二町会で美化委員会の委員長をやっておりますDと申します。よろしくお願いたします。

皆さん御存知だと思うのですけれども、美化委員会というのは3年前までは各家庭の消毒の作業をやっていたのですけれども、3年ぐらい前に消毒がなくなりまして、それ以降どうしたらいいかということで委員会の中で話し合いまして、結局、町会のごみ拾いを始めたわけです。

話を聞きますと、ほかの町会ですと、その委員会自体がなくなってしまふ、活動がなくなってしまふみたいなのところもあったらしいのですけれども、とりあえず鍋二町会に関しましては、そういった形で活動を続けていこうということで、ごみ拾いを始めたのですけれども、何しろ歴史がないものですから、毎回毎回、人を集めるというのですか、来ていただく、参加していただく、自分たちのまちを自分たちできれいにしていこうという趣旨といいますか、活動の内容というものをなかなか理解していただけなくて、集まっていたかということが一番の苦労、悩みの種です。

集まっていたかために回覧をつくって、活動をしますよ、活動をしましたといった報告をしたりとか、あるいは、今までは美化委員会だけ単独で別な日にやっていたのですけれども、リサイクルの廃品回収も同じ日にやれば、リサイクルで出てきた人たちも、その後にごみ拾いをやれば一緒に手伝ってもらえるのではないかという、そういうちょっと甘い考えがありまして、同じ日にしてやってみたのですけれども、実際は、もちろんたくさんの方が手伝っていただいているのですけれども、リサイクルが終わった後に半分以上が帰られてしまうのですよね。

歴史がないということで、なかなか認知されていないところがあるのですけれども、直接一人ひとりにお声をかけてお願いすれば一番いいのですけれども、なかなかそうもいかないで、ただ、喜びとしましては、そうやって特にお願いしなくても、積極的に自主的に出ていただいて活動していただいたりとか、作業の後にたくさんの成果としてごみが集まったとか、そういったときには大変な喜びを感じます。

以上です。ありがとうございます。

《村山》

どうもありがとうございました。

鍋二を福生で一番美しい町会にしようという、そういう目標で皆さん頑張っておられるのですが、いろいろ知恵と工夫を働かせて、呼びかけのチラシなどもカラー化したりして、大変魅力的な活動しておられます。まだDさんはお若いわけですので、将来が楽しみなのでございます。

お時間のこともありますので、町会についてこんな短い時間で切り上げてしまうというのは、まことに心苦しいのですけれども、次のテーマに移らせていただきたいと思います。

町会の活動はたくさんあると申し上げましたが、そのうちの一つは、市が実施いたします総合防災訓練というものに参加するというのも一つの活動でございました。

次はボランティア活動の話題に移りますが、私、小林さんから、ボランティア、特に防災ボランティアということで活躍されているというお話を伺ったときに、それは市がやるべきではないかな、なんていうふうには浅はかにも感じてしまったのです。

ところが、いろいろお話を伺ってみますと、市が実施する総合防災訓練というのは、市民全体が対象ですので、余り時間をかけて深く何かをやっていくということは難しいわけですね。それで、どちらかといえば、例えば骨折したというときに初期処置をすとか、それから火が出たというときに初期消火訓練をすとか、または家に閉じ込められてしまった人を救出するために、エンジンつきののこぎりで材木を切るとか、せいぜい深くやるとしても、その程度であるということがわかりました。

ところが、小林さんの活動はもっともっと深い活動なのですね。つまり、人間はどこまで生きられるか、どれだけつまじい食糧で生きられるかとかということなのですね。そういう深さで市が市民全体を対象にしてやるということは、これはなかなか大変なことです。それで初めて私は、この小林さんが展開されておられます防災ボランティアの意味がわかったような気がいたします。

そこで、お待たせいたしました。小林さんを御紹介いたします。小林さん、最初に自己紹介をやっていただけますか。よろしく願いいたします。

《小林》

ただいま御紹介いただきました、本町第二町会の小林です。どうぞよろしくお願い致します。

自己紹介ということなのですが、今、町会長をやらせてもらっています。先ほど市長からお話いただきましたけれども、定年になってからボランティアをやっておりますけれども、会社勤め、会社人間ということで、全然町内のことを家内に任せっ放していたのですね。

いざ定年になったときに、では、自分はどうするのだと。家にいると「ぬれ落ち葉」だとか、邪魔だとか。今まで昼食はつくらないで済んだのが、今度はつくらなくてはいけないではないかというクレームもいろいろじかにいただいて、これは厳しい話だなということもありまして、もう少し自分のことを考えなければいけないかなと。

では、実際に、最終的にはどうなのかと。人は頼れないと。自分しかないのだと。自分しかないのだったら、自分なりにできることをまず動けるうちにやっておくのではないかとということから、ボランティアに関する考え方が芽生えてきたのです。

それで、町会の方から、あいつ暇だから、では町会の役員に誘ったらどうかという話が内々に決まっていたらしくて、やってくれないかという話がありまして、私も、では、動けるうちはいいだろうということで、軽い気持ちで受けてしまったのです。それは町会のしきたりを全然知らないものですから、軽く受けてしまったのです。

次に、何か、下が今、年齢的につながらないので役をやってくれないか、なんていううちに、まあそれもできればいいかなと、勉強かなということやっているうちに、副になってしまったのです。副になったら、町会長をやらない限りはやめてはだめだということで、とうとう町会長になってしまって、今、あたふたしているということなのです。

それから、先ほどのボランティアの話につながりますけれども、町会の考え方も一種のボランティアといえますけれども、実際にはお金をいただいてやるわけですから、完全なボランティアとは違いますので、もう少し完全なボランティアということで、社会福祉協議会の方に行きまして、そのときに、「シニアのための介護教室」というのがありまして、では、そういうのに行ってみようということがきっかけで研修を受けました。

そのときにお集まりいただいた方々が、みんな御年配の方なのですね。私より上の方ばかりそろってしまっていて、最後のときに、卒業式に、これだけせっかく集まったのだから、何か継続したらどうかと。月に1回ぐらい会うのもいいではないかということで、では、やってみようかということで、私が呼びかけをする形になってしまいました。一番若うだからお前がやれということで呼びかけをやって、往復はがきを出して集めて、12名ぐらいの賛同者が集まりまして、第1回の会合をやって始まったのが「悠楽会」。私のボランティアの会は「悠楽会」というのですけれども、そういう会をつくりました。

そのテーマというか、趣旨は、寝たきりをゼロにしようではないかと。皆さん、顔を見ると、失礼ですけれども、もう先が短い方ですので、これはもう、うちに閉じこもっていたら寝たきりになってしま

うから、何とかこっちに出てきていただいて、寝たきりゼロになっていけばしめたものかなということで、何か楽しいことを考えようかとかいうことでスタートしました。

今、これがかなりいろいろな方に受け入れられて、今の活動のメインが「デジタルサロン」といいます。サロンは、お茶を飲みながら楽しく、パソコンを通して輪をつくっていきかなと。「パソコン教室」というと固くなりますので、サロンという名前をつけまして、お茶も飲み放題ということで、飲みながらパソコン談義をやって、初心者も手取り足取りということで、今やっております。それが好評をいただきまして、だんだんふえてきております。

それから、これからお話しします防災の件ですけれども、これも具体的にちょっとOHPを使いながらお話ししていきたいと思っております。

OHP放映

ただいま自己紹介のところ、概略終わりましたのですけれども、ボランティア連絡協議会のところに入りたいと思っておりますが、ボランティア団体「悠楽会」をつくりまして、社会福祉協議会の方へ登録しました。そうしたら早速、既存の福生ボランティア連絡協議会というものがありまして、その会長さんから、うちのところへ入らないかという声がかかってきた。私は何だかわからないのだけれども、まあそういうのがあるのだったらいいのではないかと、なんていうことで、すぐ入ってしましまして、それがきっかけで、だんだんやっているうちに、何やら副会長ということになってしまったわけですけれども、あと、この辺は時間の関係で省略したいと思います。

ボランティア連絡協議会のところに行きまして、今、福生ボランティア連絡協議会に参加している団体が31団体ございます。その方々が659名ほどおられます。ことしから役員17名と。去年度までが15名で運営していたのですが、ことしから少しふやして、できるだけその交代準備もしていこうではないかということでやっております。私はその中の副で、今、副会長は二人おりまして、副をやっております。

それから構成団体は、別紙「構成団体名簿」参照ということですので、ちょっと変えたいと思っております。これが31団体ですね。全部読みあげると、またこれも時間の関係で難しいのですけれども、それぞれの団体の発足したのがこちらに書いてあります。私の発足したのは平成8年で、12名で、出たり入ったりということで、出は、やはり高齢者がいますので、残念ながら寿命が来られた方がおりまして、へこんだり、また新しく入ったりということで、大体この辺を行き来しております。ここが代表者ですね。

それぞれのグループは、それぞれ独自の活動をしております。きょうも中にボランティアの方がお見えになっていますので、もし時間がありましたら、自分のところの自己紹介、内容紹介をしていただくとありがたいかなと思っております。

今、ここが終わりまして、連絡協議会の運営はど

んなことをやっているのだと。いろいろな市に行きますと、実際になかったりあったりと、さまざまです。今、我々がやっているのは、各団体さんの質の向上、個々の質の向上を図りながら、研修会を開いたり勉強会を開いたり、お互いに刺激を与えつつやっています。ボランティアさんの幅も非常に広いので、質ということについても重点を置きたいと。それからグループ間の情報交換、これも非常に大事なことです。これも後ほどの話に関係してきます。

それから社協事業への共催。大きなイベントについては、福祉まつりとか福祉バザーとかありますけれども、こういうもの。最近はデイサービスを一緒にお手伝いさせていただくとか、いろいろあります。

それから学校教育関係。最近は総合学習という話も特にふえてきてまして、学校からいろいろな依頼が来ます。それに対して、連絡協議会の役員たちでそのお話を聞きながら、調整したり、プランニングしたり、我々の団体の中のコーディネートをしていると。

それから、人数的に物すごく最近ふえてきました。例えば小学校の車いすが足りないという、座る人が150人ぐらい。となると、ボランティアが二十何人必要ということになりますので、とても一つのグループでは対応できませんので、対応できるようにグループ間でやれる方を動員していただくなどのことをやっています。

それから各福祉施設などでイベント、お祭り等がございますので、そういうときにもグループ間調整して、出られる方に応援していただくなど、各団体でできないような大きな話になったときには、連絡協議会がそのコーディネートをしていくということなど、たくさんございます。

それから、ボランティア防災会議福生、これがきょうの本題になるわけですけれども、その中身についてですけれども、これは後ほどのOHPにより、動機等について御説明したいと思います。一般市民による実行委員会を構成して、ボランティア防災会議福生というものをやりました。

それから、この組織の実際の行動は、都市災害による行政機能の麻痺状態に対する自活力の育成、啓蒙、それから非常時に役立つ人材の発掘、それから育成、連帯機構の啓発とか、備えの提案ということをやっています。今現在、足がかりをやっと構築したということです。

それで、こういういろいろな人との出会いからいろいろなことが出てきてまして、また、先ほどの31団体の人をうまく一つにまとめていくためには、だれもが共通のテーマ、ということは、生きることですね。生きること。一番それに直接関係するのは、阪神・淡路大震災のような都市型の災害が来たときには、どうしてもなくなるわけですね。先日、市の総務部の方からのデータで、たしかシミュレーションすると、7%ぐらいから発火すると。そうでした。何かそんな話もありまして、そうすると消防車の関係、それから消防団でも今は5分団、それから車がもう実際には通れないだろう、そういうこと

も当然考えられます。そのときに効果を上げられるような体制を一般市民で考えていこうというのが、この会の趣旨でございます。

それでは、これが防災に関するもので、今回、泥縄式にまとめましたけれども、まずここからいきたいと思います。「阪神大震災に学ぶ」と。我々が阪神大震災があったとき、ボランティアとしてどうしたかということ、具体的に行動をとれなかった。できたのは募金集めだけだったわけです。では、実際に自分たちがそういう災害の被害の当事者だったらどうするかということ、やはり心配になりました。

そのときに、たまたまやはり社会福祉協議会の方で考えていただいた講演会がありまして、「災害時のボランティア活動」というのがありました。これが1998年3月でした。そのときの先生は大震災のときに、自分でワンボックスの車で3カ月も現地に行って災害ボランティアを実施したすごい方なのです。その方の講演を聞きながら、自分に当てはめていこうと。そのときに、自分の命は自分で守る、6歳の子どもにしかできないボランティアがあるのですよという話なのです。

では、何とか自分たちもできそうなボランティアがありそうだなということで、では生きるために、都市が全部だめになったときに自分たちで生きるためには、一番簡単に着手できるのは何でしょうかという質問が、聞いている人から出まして、それはアウトドア体験をしてみたらどうですかという話のもとで、皆さん、アウトドアというのはキャンプぐらいを考えていまして、ではやってみようかなんていったら、今度は1泊2日なんていったら、そんなものではないと。では2泊3日、そんなものではだめだと。もっとやらなくてはだめだということで、最初にボランティア連絡協議会の役員を中心にして研修会を開きました。

その役員が、今度は、ある程度感覚をつかんだところで、次のステップに行きましょうということで、次のステップが都市災害復興を目指す自主市民の活動ということで、「ボランティア防災会議福生」という名前で実行委員会をつくりまして、広く一般の方に参加していただいてやろうということで、具体的にやっていったわけです。

後ろにあるパネルが、これは何回か重ねて、2001年の社協主催の「夏ボラ体験」というところに防災会議も参加しまして、受け入れ窓口ということで参加して、そこにやった人間がいるようなのですけれども、参考にさせていただきたいと思います。時間の関係で、また後ほど質問に答える形でお話ししていきたいと思います。

これらの経験、参加したり経験したことによって、感想としては、これができたのも、長い間のおつき合いがあって得られたということを非常に感じました。

最初に、自主的な市民活動ということで、事業予算がありませんので、事業予算を自分たちで稼ぐと、お願いするということで、広告をとりながら歩くわけですね。見ず知らずの人が行ったのでは、絶対にお金を出してもらえないですね。それにもかかわら

ず出していただけるということは、行ってくれた人とそのお金を出してくれた人との関係というものが物すごい密ではないかと、そういうことを物すごく感じました。それから、そういう出してくれる方が、あなた方の自主的なものに協力しますよと言ってくれた、そういう方たち、ものすごくすごいなと私は感じました。

それから今現在、複雑に分業化している社会ですので、さあ、自分がその場になったときに、食べることすらできないのですよね。そういうときに、ではどうするかということで、ここに集まった人それぞれの特徴、個性を生かして、黙っていてもその人が、自分が周りの人よりも少しでもできれば、その人が主体になってやっていくという、それぞれの長所が生かされる場がそこにあるというのがわかりました。

それから、このときには、我々がプランニングしたものを各行政機関に、こういうふうに計画したので、ぜひ協力してくださいということで、市とか消防署、警察等々をお願いに行きましたら、快く対応してくれた。これもすごいなというふうには思います。それぞれの機関が、いわゆる支援してくれているわけですね。

そういうことの積み重ねが、今日の訓練をやらせていただけるものになっていけるのですけれども、全体の、このときには5泊6日なのですけれども、5泊6日の全体を通して見ると、そのテント村から福生市の災害があると消防車が出ていく、救急車が出ていくということで、本当にこれは避難所だなということもわかるし、その中で、こちらでは食事なんかをしてくれる人、それからそれぞれで、まきをつくる人、いろいろな方がいます。そういう中で自分が生かされているというのは、ものすごく全体を通した中でわかったというのが、私の最初の感想です。

これから次の方が、この辺を重点的にお話してくれると思いますので、この辺はちょっと省略しておきます。

それから波及効果。これをやって、最初、寄附してくれた方には報告書をつくってお出ししました。後ほど、一部持ってききましたので、皆さんに回覧して見ていただきたいと思いますけれども、それを配布したのがもとで、いろいろなところからその影響が出まして、特に消防署の方々は、たまたま第3回全国まちづくり防災なんとかというテーマでありまして、その中の大賞をいただきました。こういうことも波及効果で出てきて、今、逆に福生というまちが、日本全国の中で福生のこの団体は元気があるという評価をいただいています。ぜひ皆さんにその辺を御理解いただければ幸いです。

それから教育関係の方もたくさん来られておりますので、この辺に答申というものがいろいろ出ています。そういう内容が全部、この訓練の中にも含まれているのです。縦割りで見えていくと、なかなか入りにくいように思うのですけれども、こういうふうには訓練を通すと、全部横でつながっていきます。そういうことも理解していただけたらなというふう

に思います。

それから、ことしもまた社協の一環で「夏ボラ体験」の中に参加してやりますので、ぜひ都合がつかましたら、一緒にやっていただきたいと思います。

以上で、雑駁ですがけれども、概略を御説明して、あと個々の御質問にお答えしたいと思います。

《村山》

大変貴重なお話をありがとうございました。大変恥ずかしいことに、そういう活動をしてくださっている方が市内にいらっしゃるということも存じませんで、社会勉強が足りないかと反省しております。

せっかく詳しくいろいろとお話しいただきましたので、もし御質問がございましたら、この機会にと思えます。いかがでしょうか。

先ほどお話ししましたように、ボランティアは非常に多岐にわたっているわけですが、この防災ボランティア一つ取り上げても、これだけ専門的な知識と、それから組織を動員して体験をしておられて、いざというときには、ここで体験されていた方が市民の皆さんの命を救う核になっていくのだろうということが理解できたと思えます。

もし御質問がなければ、またこれは今後も小林さんの方に、何かございましたら、ぜひコンタクトしていただくとして、きょう、おれは別のボランティアをやっているぞという方がもしいらっしゃいましたら、ちょっと手を挙げていただいて、せっかくの機会でございますので。では、恐れ入りますが、マイクをお願いいたします。

《Eさん》

熊川住宅に住んでいますEと申します。一番南の端っこです。町内会のことでもちょっと言いたかったのですが、

《村山》

どうぞ、あわせて。

《Eさん》

どうしているかと申すと、20年近く、福生へ越してきたのが昭和56年ですから、20年になりますが、ずっと高齢者の関係の団体に籍を置いていて、役員をしていましたので、介護保険のことを始めとし、高齢者の福祉のための仕事を随分やってきました。

ただいまのところ、それをベースにしまして、高齢者と子どものふれあいの場を、たまり場をつくるということ準備をしまして、NPO法人の申請をしているのですが、3月に東京都に受理されたので、7月には恐らく認可になると思えます。それについて、場所とかそういうものは、町内会の会館を使いたいのです。ああいうところというのは全然使われていませんから。

それから、今、小林さんからおっしゃられたいろいろな話が、非常に私が今までやってきたこと、これからやろうとしていることと共通している部分がたくさんあります。正直言いますと、31の団体

が加入しているボランティアの連絡会というものがあるということも、まことに申しわけないのですが、知らなかった。ぜひそういうものに参加したいと思っていますし、自分でも、そのふれあいの場を、私も82歳になりますけれども、最後の仕事として、何とかして実らせたいと、こう思っております。

《村山》

どうも貴重な御意見、ありがとうございました。何か小林さんのお話と、Eさんとおっしゃいましたか、何かがちりとかみ合ったという感じがして、大変うれしゅうございます。また多分、小林さんの貴重な御経験がいろいろと波及効果をあらわすのではないかと思いますので、ぜひ御連絡をとり合ってくださいと思います。

ほかに、こういうボランティアを私はやっていますという方、お願いいたします。

《Fさん》

長沢に住んでおりますFと申します。

実はきょう、先ほどヨーロッパから帰ってきたばかりでございますけれども、青少年育成と、それから家庭崩壊ですね。それから家庭内暴力、そういうものをどうして、いかにして防ごうかというような会議がございまして、たまたまきょう、どういとお話かなと思ひまして、私の発言は控えさせていただこうと思ひましたら、今の小林さん、それから村山さんの町内会のお話で、私、実は自慢して話してきたのです。世界じゅうから、65カ国ぐらいから来ました会議ですから、日本の町内会はずばらしいよと。そういう町内会で今度、今すぐというわけにいきませんけれども、日本の町内会はこういことをしているのだよと。だからぜひ、プライバシーに入るようなことはいけないけれども、日本の町内会というのはお互いが見合って、どんな生活をしているか、みんな知っていますね。

私は、たまたま二十何年前に町会の副会長をしまして、よそ者でございますから、皆さんから見ると、名前のとおり、Fというのはよそ者でございますから、会長はちょっとね、会長だけは、そのころの風潮としては、会長というのちょっと控えさせていたことと、それを皆さんに話したので。そういう村に住んでいるのだけれども、そういう町内会というのはずばらしいよと。組長さんがいらっしゃるね。そういう組長さんが、ただ募金とか、それからさっきの回覧板を回すだけではなくて、一応はお隣は何をして、お隣って5~6軒から10軒ですけども、そういうような町内会というものがあるんだよと。

そうしたら、すばらしいではないかと。そういうところから、今の青少年育成とか、今おっしゃったような、それからもう一つは、ちょっと今はお触れになりませんが、外国で一ついいのは、子どもたちが人工呼吸とか蘇生法を随分と受けて、今は先生方はいらっしゃるのでしょうかね。学校で保健でやっていますから。ヨーロッパでもアメリカでも、非常にその人工呼吸とか蘇生術というのは、

子供でもやっていますね。それだけは、私の経験不足かもしれないけれども、それだけはちょっと知らないから、調べるけれども、そういうものも組み入れてやるといいですね、という話があったのですよ。

先ほどおっしゃった町内会というものは、家庭内暴力とか、それから何と申しますか、子どもの扶養と申しますか、そういうものを全部、町内会が知っているわけですよ。そういう、何と申しますか、お隣同士、先ほど申し上げたように、プライバシーにかかわるようなことがあるかもしれませんが、非常にいい組織ですよということを話したら、ぜひその町内会というものを教えてくれというわけですよ。

私もたまたま、今、東京都のある団体の青少年育成とか、それからアメリカとか世界じゅうから青少年交換の仕事をしていますものですから、そういうようなことで、ぜひ日本の町内会を紹介しろということで、今、いいお話を伺いましたものから、ぜひそうしたいと思っています。

《村山》

どうもありがとうございました。時差もおありかと思いますが、大変貴重なお話、私もちょっと感じていまして、「交番」という言葉は世界でも共通語になりましたね。それから「駅伝」という言葉も世界の共通語になりました。私は、ここにお集まりの皆さんが、今後その地域活動を町内会を通じてやっていくと、「町会」とか、または「隣組」なんていう言葉が、もしかしたら国際語になっていくかもしれないな、なんていうふうに思っているところでございます。

どうもありがとうございました。

ほかにボランティア……はい、お願いいたします。

《Gさん》

Gと申します。

まちづくりということで、きょうはボランティアということに関連いたしまして、私もボランティアの関係で、先ほど出ました福生ボランティア連絡協議会の中の一部で「おじいさん会」という会をつくられているメンバーの一人ですけれども、この「おじいさん会」というのは、青少年問題協議会の中で経験した人たちの仲のいいグループでつづけている会で、現在18名おられますけれども、その中で、青少協が終わって、何かやるものはないだろうかという話から「おじいさん会」というものを設立いたしました、それでボランティア連絡協議会に入らした。

その中で、今回の「ボランティア防災会議福生」というものをつくり上げていったのですけれども、そのまちづくりが一昨年あたりから、市の七夕まつり、市民まつりという七夕まつりに、このボランティア連絡協議会が福生市の七夕飾りを、竹飾り10本をお願いされたのです。これはやはりボランティアの中でできるまちづくり。これが駅前において寂しかったら恥ずかしいよねというような、そんな発想なのですね、その竹飾りをつくらうというのは、

現実的にこんなものでやっついこうというので、昨年はボランティアの人たちが集まって何人かで平塚まで見学に行く。見学してきて、そこでその様子を見て、やはり福生でも少しでもということで、今回また七夕、来月の初めの金曜日ですか、4日の日かな、そのぐらいに行ってみようかと思っておりますけれども、そうやって

ボランティアとまちづくりというのは、これからもつながっていくのではないのかなと。

皆さんがそういういろいろなところで会いを求めながら次のステップにつながっていくことが、これからの求められる、市長が話しているまちづくりの、やはり前身になっていくようなものではないのかなと。いろいろなところでいろいろな人がやっているとは思いますが、やはり今回のそういうものは、代表的なものに見えるのではないのかなと。よそから来た人に福生を売り込むにはそういうものしかないのだというふうな、ちょっとスケールが大きいかもしれない。

それと、ボランティア防災会議福生というのは、現在、平塚と、それから今、持ち上げようとしているのが、相模湖でもってそういう会をつくってみようということ。それと日の出町でもそんなふうにして、現在、勉強に来ております。その福生というものが変われば、どこでもその名前は使えるというようなことで名前を、ネーミングをつけておりますけれども、こういうことがいろいろなところにつながっていけば、発揮してくればなと思いがながら、一言だけお話しさせていただきました。

《村山》

どうもありがとうございました。

この間のワールドサッカー、まだ決勝戦が残っていますけれども、皆さんが感じられたことというのは、ああいう一つの目的に向かって、最近、日本の国民があんなに一つになるということではなかったのではないのかなと。そうすると、やはり何か魅力さえ持てば、みんなが力を合わせて大きな力になっていくというふうなことが可能なのだなということを感じ、実感された方がたくさんいらっしゃるのではないかなと思うのです。

ですので、いろいろ困難はあると思いますが、何とか知恵を出して、この地域活動というものの本当の意味というものを理解していただいて、活性化していければなと。要らないよと言う人がだんだん少なくなるように、ぜひしていただければなというふうに思っています。

ほかに、ボランティアで活動されておられる方、いらっしゃいますか。

この二つ目のテーマも、残り時間のことを考えますと、この辺で切り上げないといけなくなりました。いろいろと御発言をくださいました方々、本当にありがとうございました。それから、まだまだ十分活動の実態を御紹介する時間がなかったと思うのですけれども、小林さんのお話は大変貴重でございまして、意義が非常に深かったのではないかなというふうに感じます。

さて、そこで今度は三つ目に入らせていただきます。

町会活動でも子どもさんをどうするかということで、今、本当は少子化ですから、親と子の交流というものはたくさんあるはずなのですが、恥ずかしながら、私の例をとれば、子どもに教えることができない。親が体験不足。昔だったら、自分でなくても、隣のおじさんが、またはその隣のおじいちゃんがいろいろと教えてくれたのではないのかな、そんな中で我々は育ってきたのではないかなと。ところが、そういう環境がなくなってくると、何か別の形で子どもに、伝統とか、新しい技術とか、そういうようなものを学んでもらう体制が必要なのだろうなというふうに感じているのは、私だけではないと思うのです。

いよいよ北澤さんに、少ない子どもを対象にどんな活動をされているのか、その実態をお話ししていただきましょう。北澤さん、自己紹介も含めてお願いいたします。

《北澤》

こんばんは。今、福生の青少年育成地区委員長会議というところの、副会長をやらせていただいています。地区でいうと、町会が福栄町会で、福栄地区の地区委員長という形で、青少年の育成といいますが、子どもたちと一緒に遊んでいるというような状況です。きょうはたまたま、会長さんが御都合が悪いということで、じゃあ北澤、お前が現場でいろいろ子どもと一緒に遊んでいるのだったら、ちょっと話をしてくれというようなことで、きょうはこの席に立たせていただいております。

僕は8年前に福生に越してきたばかりの、本当の新参者です。町会の役といいますが、いきなり回ってきたのが、5年前に町会の副会長がいきなり、なぜかやってきまして、というのは、当時の町会長がうちの隣だったものですから、近いところから攻めていったのかなと(笑い)、後々思うとそうなのですけれども、その誘われたときにころっといく形で、まあやってもいいかなという形で参加したのが最初で、それから1期2年だけ務めた後、青少協といいますが、育成委員長会の方を、たまたま近所の友人から引き継ぐような形で始めさせてもらったのがきっかけで、こしは4年目になります。

最初、当初その福栄地区の方は、地区委員長さん、僕の前々任者になる方なんかは、町会の方の役と兼任していましたので、青少協という形での活動というものはありませんでした。なので、僕らの方で引き受けたときに、まず、子どもたちの思い出に残るような行事を一つでもやるうということで、たまたま同世代という、子どもが同じぐらいの年齢のお父さん、お母さん方で、たまたま町会の夏まつりやほかのことで知り合った仲間がいたものから、では一緒に始めようというようなことで始まりまして、ホテルまつりへ出店して資金を稼いだり、一番最初の年は七夕も出したのですけれども、七夕も出して資金を稼いで、子どものための夏のキャンプとか、冬というか、年末のもちつき大会というような

ことで、子どもたちと一緒にやっています。

それで、全員のお手元にあるかどうかわからないのですけれども、カラープリントした写真が写っているものがあると思うのですが、それに写っているのは、ホテルまつりというところで近所の仲間たちと出店させてもらって、2枚目になりますけれども、キャンプということで子どもたちと、また、もちつきということで年末にやっています。

それぞれの活動の紹介といいますが、特に夏のキャンプなんかでは、現在、子どもリーダーということで、5・6年生以上を対象に、中学生も高校生もいよいよということで募集をさせてもらいまして、子どもたちの方で企画を、そのキャンプの中で何をやるか、どういった形で進めるかというのを話し合わせてやってみようという形をとっております。それも、子どもたち自身がみずから考えて行動できるようになってもらおうというようなことで始めました。

それというのも、僕が子どものときは何も考えずに生きてきたなという反省からなのですけれども、写真にあるようにテント立てから、夕食の買い物から、食材切り、そして調理、そして最終的にはテントをたたんでしまうまでというようなところまで、子どもたちを中心にやっております。キャンプでは、福栄地区内に公園があるものから、そこでやらせてもらって、大体子どもの参加が50人から60人程度参加しております。

一応、青少年育成地区委員長会というものは、会員を持たない組織なのです。自分の地区の児童数の分だけ市の方から助成金という形でいただいておりますけれども、そのほかは僕たち自身で資金をつくったものとか、あと地域の資源回収の方からの資金を使わせていただいておりますので、キャンプは費用なしということで子どもの方の参加を呼びかけて、また、会員を持たない組織なので、参加したいという子は、いどこを連れてきてもいいよとか、地区以外の子と一緒に参加したければ、友達と一緒に参加してもらっていいよというような形でやっておりますので、大分多くの参加をしていただいております。

それと、1枚目の写真にあるのですけれども、町会の夏まつりの方も、うちの町会は青年部というものがないので、どうしても若い男手というものがなかなか集めづらい状況にはあるのです。でもそこで、趣味が高じてですが、ソフトボールのチームというものをたまたま僕ら、近所の友人とやっております。今ここにも、その面々もいらっしゃるのですが、そのソフトボールのメンバー、やはり男手というのは大切ですので、お祭り等にはいろいろと御協力いただいて、子どもみこし、大人みこし、模擬店というような形で町会の方のお手伝いをさせてもらって、夏まつりの方も一緒に楽しんでいるということです。

あと、1枚目の写真のハロウィンパーティーというものがあるのですけれども、これは開催した当時の中学会の支部長さんのアイデアで、せっかく基地に近いところに住んでいるのであれば、アメリカの

文化にも少し触れてみましょう。では仮装パーティーを、仮装して練り歩くパーティーをまねしてやってみましょうということで、地区の中から「お菓子ハウス」というような形で何軒か募集して、そこにお菓子、少しは会の方からお菓子を持って行って、これを配ってくださいということで渡すのですけれども、ほとんどそれぞれのおうちでも用意してくれていたみたいなのですが、「お菓子ハウス」というところを、子どもたちにその「お菓子ハウス」の場所はここだよという地図を渡して、それで班ごとに回るといような形で、みんなで仮装して楽しみました。子どもたちが自分たちで仮装して楽しむというよりは、仮装させる大人の方が夢中になっていたのではないかなというところがあるのですけれども、そういうような形で楽しくやっています。

以上のように、どちらかという、青少年の育成というよりは、子どもたちと一緒に遊んでいるというようにところが強くて、偉そうなことは言えないのですけれども、そのほかに、ちょっと僕、少年野球のコーチの方もやっています、福生第三小学校の「ペガサス」というチームなのですけれども、ここでも、チームのモットーは「友愛の精神と健全な体」、そのようなのをモットーに子どもたちと一緒に頑張っております。

やはり子どもからしてみれば、大人と一緒に夢中になってやってくれるという姿が、やはり物事に興味を持って、それに夢中になれるきっかけになるのかなという気がして、何とか、野球に関してもそうですし、そのほかのキャンプや、そのほかのことについてもそうなのですけれども、どうやって好きになってもらおうかなというようにことで頑張っているというつもりではありません。

最近の兆候といいますが、なかなか難しい面といったしましては、僕の場合、運よくソフトボールのメンバーというか、仲間というのがいるので、男手はある程度、出るのですけれども、やはりその子ども会、中学会、町会の方の三役を除いた委員さんなんかは、特に女性が中心になっているといったところで、もっともっと男の方が出ていただいて、男の視点でいろいろと意見を取り交わしたりできるようになるといいのかなというふうに思っています。

それと、子どもの方からいいますと、中学に上がると途端に地域の活動等に来なくなってしまうという問題点もございまして、今、学校の方も週休2日ということで、いかに地域が受け皿になるかと、地域の方としてどういうふうに対応するかというように、教育現場からも言われているのですけれども、その辺、本当はこういった話し合いの中にも、教育現場の人も来てもらって、その辺が密に話ができるとう本当はいいのかなと。なかなか来い来いと言っても来ませんし、学校側で行け行けと言っても出てこないというような状況はあるようです。そういったことで、中学生になってから、中学生をいかに呼ぶか、いかに中学生が魅力を感じるようなことがやってあげられるか、または出てこられるような雰囲気をつくるかというところが、今の一番の課題かなというふうに感じております。

す。

《村山》

どうもありがとうございました。

そろそろまとめに入りたいのですけれども、特にこの青少年の活動についてこれだけは言いたいとおっしゃる方がもしいらっしゃいましたら、ちょっとお手を挙げていただければと思うのですが。

今のお話を伺っていると、本来、親がやらなければいけないことを、北澤さんのような方がかわって交流をしていただいているということは、大変ありがたいと思いますし、反省もするところなのですけれども、どなたかいらっしゃいましたら、一言お願いいたします。

非常に重要な問題だとは思いますが、また別の機会もあるかと思しますので、ぜひ皆さん、きょうのテーマについて、またはそれ以外のことにつきましても関心を持っていただくことをお願いしたいと思います。

田村さんに、きょうの全体の締めをしていただくかと思しますので、田村さん、お願いいたします。

《田村》

きょう2時間ほど時間をちょうだいしまして、皆さんからたくさん御意見をいただいて私を感じたところは、やはり地域活動というテーマでやっておりますけれども、やはり教育問題の話にいたり、あるいは老人介護の問題にいたりということで、これ一つ一つでも全部、一つのテーマで2時間、3時間ができるようなことにやはりいつてしまうのですね。これは、すべてがまさにリンクしていて、大変重要な問題がリンクされているのだなということを感じました。

それからまた、21世紀は日本はどうしても少子・高齢化を抱えながら、これから突き進んでいかなければいけない中で、やはり行政に頼ってその少子・高齢化、あるいはそれに派生的に発生します老人介護の問題ですとか、地域で支え合いながら子どもたちを育てていこうとか、そういう問題を行政だけの力に頼ることは、これは非常に難しい問題だと私はつくづく思うわけでございます。そういった意味で、私もぜひとも、皆さんと一緒に地域活動に参加させていただいて、そういう問題を少しでもお役に立てるように努力していけたらなというふうな感じがいたしました。

本当にありがとうございました。

《村山》

田村さん、ありがとうございました。

大変、司会の方がふつつか、ちょっと時間をオーバーしてしまいました。こういう機会を一市民のレベルで設けていただいたということは、大変光栄でありましたし、また、身分不相応にもこういうところに座ってお話をさせていただくというのは、大変僭越でございました。

ただ、これからも、とにかく地元について強い関心を持ちながら、あらゆる機会に参画させていただ

きたいなというのが私の感想でございます。

きょう話題提供をしていただきました小林さん、それから北澤さ皆さん、改めてありがとうございます。（拍手）

《市長》

どうもお疲れさまでございました。ありがとうございました。

さまざまな人がいまして、さまざまなことをやっておられて、いろいろと深めるべき視点が出されたのではないかと思います。

本日は田村さんと村山さんにコーディネーター役を引き受けていただいて、大変な思いをして進めていただいたのではないかと思います。北澤さん、小林さんにはいろいろなお話をいただきました。御出席の皆さんのお話もたくさんいただきました。このようなことをもとに、これから先の展開を図っていければと思います。

それでは最後に、この4人の皆さんに拍手をいただきまして、これをもちまして、きょうの会を終わりにさせていただきます。（拍手）

終了